

令和6年度 天理小学校運営計画

評価 A：きちんとできている B：ほぼできている
C：あまりできていない D：全くできていない
(評価欄の基準は、A+Bが90%以上→A 70%以下→C)

	重点目標		目標達成の方策	評価	
信条教育	将来立派なふいぼになるための基本的な素養を身につけさせる	1	「めざす教職員像」を意識しながらいっそうの成人を目指して自らの信仰を深める。	A	各々が「めざす教職員像」を意識し、いっそうの成人を目指して主体的に取り組んでいる。個人としての信仰を深める取り組みを他の教職員と共有したり学び合ったりすることで、組織としての成長も促進したい。
		2	自身の信仰姿勢を児童に映すよう心掛けるとともに、教えに基づく学級経営・学校運営を目指す。	A	教職員自身が教祖のひながたを学び直し実践していくことを通して、学校生活のあらゆる場面で児童に語り、謙虚な気持ちで信仰実践を重ねていきたい。
		3	信条の授業充実を目指す。信条の授業をはじめ、あらゆる機会を通して親神様の思召し、教祖の親心を児童に伝える。	B	信条の授業を組み立てる際、子ども達に伝わりやすいように様々な工夫を凝らしているが、教職員が学んだことや授業実践を他の教職員と共有することで、さらに信条の授業を充実させ、信仰を日常的な実践へと深化させていきたい。
		4	朝の学校参拝を児童と共に心を込めてつとめることで、勇んで一日の学校生活を送るようになる。	A	参拝前に機をとらえて担任がクラスの児童に一言話し、心を揃えてつとめられるようにしている。児童とともにおうたを元気に唱和して、勇んで一日が過ごせるようにしたい。
児童育成・生活指導	生きるための力を高めさせる	5	水泳、持久走や縄跳び、さらに運動会をはじめ様々な学校行事を通して、体と心を鍛えさせる。	A	仮校舎の環境と猛暑により水泳の授業がかなり制限され計画通りにはいかなかったが、運動会、5分間走、縄跳びなどの取り組みや、体育授業で運動量を増やす工夫をし、心身を鍛える活動の機会を確保した。
	生活のきまりを徹底させる	6	きちんとした挨拶ができるよう常に指導を心掛ける。とりわけ来校者への挨拶を徹底させる。	B	誰にでも挨拶できる児童がいる一方、挨拶されても返さない児童が増えてきたという指摘がある。お互いに挨拶し合えるような取り組みを地道に続けていきたい。また、教職員が子ども達のお手本となるような勇んだ挨拶を今以上に実践したい。
		7	「学校のきまり」を繰り返しかし確認することで、落ち着いた学校生活を送るよう導く。	B	家庭の協力も仰ぎ、児童がきまりを主体的に理解し、守る意識を育むための取り組みを工夫したい。また、きまりを確認する場面を日常生活や授業の中に取り入れ、継続的な指導を行う仕組みを作っていきたい。
		8	校内での規律正しい生活に加え、公共の場での立ち居ふるまいについても重視して指導する。	B	校外学習や修学旅行、社会科見学等は、子ども達に公共のマナーを学ばせる絶好の機会である。その機を逃さず、事前に子ども達に注意すべき点を考えさせ、それらを守らせるように指導していきたい。
	ものを大切にさせる	9	学用品をはじめ給食についても感謝の心をもって粗末にしないよう指導をする。	B	感謝の心を育むための具体的な活動(例：感謝を表す言葉を伝える機会や、背景を知る学習)を充実させ、日常的な指導だけでなく、家庭の協力も仰ぎながら、学校と家庭が一体となった取り組みを進めたい。
	相手の立場を認め励まし合い助け合う温かな学校づくりを目指す	10	お互いがしっかりと励まし合い、助け合うことによって徳分を磨かせる。そのことを通して学校に温かな雰囲気をつくる。	B	天理教少年会員のちかいのの中に「互いにたすけあつて、立派なふいぼに育ちます」とあるように、どんなにつらいときにでも相手を思いやり、励ましや助け合いの心で接することができるよう、今後子ども達に伝えていきたい。
	問題行動の未然防止と速やかな対応を行う	11	子どもの問題行動を未然に防ぐため、小さなサインを見逃さず速やかに対処する。そのために教育相談・いじめ・不登校対策委員会をしっかり機能させる。	A	小さなサインを見逃さないよう教職員間で情報共有し、チームで対応するよう心掛け、多くは早期に対応できたが、後手に回る事案もあった。校内委員会を中心に、更に取り組みを強化したい。
	いじめ問題への対応をきちんとする	12	いじめの原因、背景、具体的な指導のあり方などについて、さまざまな場で教職員の共通理解を図る。	B	いじめを未然に防ぐ為の情報共有をより徹底していく。また、児童の様子で違和感を感じた際は、担任や担当外であっても積極的に対応策を提案していくようにしたい。
	児童の安全対策と交通安全指導を徹底する	13	児童の危機回避能力を養う避難訓練や交通パトロールによる安全指導を定期的に行う。	A	訓練や指導が児童にとって形骸化しないよう、実際の危険場面を想定した具体的なシナリオの導入や、児童自身が安全について考え発信する活動を取り入れるなどし、児童が主体的に取り組めるようにしたい。
学習指導	基礎・基本を確実に習得させる	14	授業の取り組みを中心にして、基礎・基本を確実に習得できるよう指導に力を注ぐ。	A	ICT機器の導入によりタブレット端末を使用する機会が増えたが、従来通りの学習も疎かにせず、確実に基礎基本が習得できるようにしていきたい。
	個に応じた指導を行う	15	児童の実態に添って、教材や指導法に工夫を凝らし、合わせて個々の学習状態に応じて学力の伸長を図る。	A	教材や指導法の工夫や成果を全教職員で共有し、また、個別最適化だけでなく、協働的な学びを通じて児童同士が刺激し合い成長できる環境づくりも目指したい。
		16	家庭とも連携を深めながら自ら学習出来るよう導く。	B	児童の興味・関心が高まるように学校での学習の進め方や教材を考え、家庭との情報共有の頻度や方法を見直すことで、児童が意欲を高めて主体的に学習を進められるようにしていきたい。
研修	研修体制を充実させ、児童の学力向上を目指すとともに、児童の健全な育成を図る	17	研究テーマに添って、教員一人ひとりが研究授業・自己評価を行い、個々の授業力向上に努める。	A	全体研修、外部研修、ペア研修、個人研修など様々な形で研修を行い、それぞれの学びを共有することで、組織全体の授業力向上につながるよう取り組む。授業改善にさらに取り組みたい。
		18	特別支援教育や不登校に関する学習会(事例検討会)や講演会を計画的に実施し、児童一人ひとりの理解に努める。	A	外部講師やスクールカウンセラーによる全体研修を行った。今後も継続的に研修を行い、児童の理解を深め、一人ひとりより良い係わりができるよう努めたい。
保護者連携	保護者の信頼や期待に応える	19	保護者の要望や意見などに対して、電話・手紙のやりとりだけではなく、家庭訪問などよりきめ細かな対応を心がけ、保護者との信頼関係を築く。	B	保護者との信頼関係を築くため、直接会って懇談する機会を大切にすると共に、児童の学校での様子が分かるよう情報の発信方法を改善していきたい。また、ICT機器を活かし、重要な情報を保護者に迅速に届けられるように工夫していきたい。